【市 長 定 例 記 者 会 見 資 料】
令 和 ８ 年 １０ 月 ２６ 日
産業振興部
農村整備課（担当：小谷口）
直通：079-559-5090　内線：2490
総合政策部
公民連携推進課（担当：山谷）
直通：079-559-5041　内線：2241

ＡＩカメラを活用したクマ等の鳥獣対策に関する実証実験を始めました

三田市では、民間事業者との対話・連携により地域課題の解決を図る「公民連携デスク」において、課題テーマ「クマ対策に対する情報提供等の推進」の提案を受け付けしています。

このたび、株式会社パトライトからＡＩカメラを活用した実証実験について提案いただきました。当該提案は、クマ等の出没を迅速・確実に検知・通知することが期待されるほか、市の対策の検討に資する内容であったことから、同社と覚書を締結し、クマ等の鳥獣の出没を検知し、情報提供等の対策に生かすための実証実験を始めました。

１．実証実験の目的

近年、本市でもクマの目撃情報が増加傾向にある中、クマ出没時に住民への迅速な注意喚起等を行うため、クマ出没の適時・適切に検知し、担当職員に通知するＡＩカメラシステムの効果を検証します。あわせて、今後の鳥獣対策方法の検討材料とします。

２．連携事業者

株式会社パトライト

３．実証実験の概要

実証実験期間：　令和８年１０月２３日～ 令和９年３月３１日

対 象 鳥 獣：　クマのほか、ＡＩカメラの検知精度を高めるためシカ、イノシシ、サルも対象とします。

設 置 場 所 ：　(1) 三田市野外活動センター（天体観測所、野外ステージ）
(2) 三田市高平浄水場施設
(3) 旧三田市立小野幼稚園遊戯室前
(4) 三田市立有馬富士森林公園（さぁふの森）トイレ横

４．実証機器（AI カメラシステム）の概要

・ＡＩカメラが対象鳥獣を検知すると、記録端末に画像を記録し、電子メールにより当該画像を直ちに市と連携事業者に送信します。

・カメラには回転灯とスピーカーを備えており、音と光による動物への威嚇や音声により危険を告知することが可能です。

５　役割分担

本実証実験の主な役割分担は次のとおりです。

連携事業者	(1)　本機器の調達、設置、調整、運用、保守及び撤去 (2)　検知画像及び検知記録の各電磁的記録の取得、管理及び送信 (3)　本実証に関する問合せへの対応 (4)　前各号に要する費用の負担
三田市	(1)　設置場所の提供 (2)　市の広報媒体等による本実証の周知 (3)　施設管理者及び関係部署との連絡調整 (4)　対象鳥獣に係る各種対策

６　今後の計画

平成８年 10 月 23 日	全 5 箇所での機器設置完了・実証運用開始
令和８年 10 月～令和９年３月	連携事業者による週１回程度の現地点検、ＡＩ検知精度を高めるためのソフトウェアのアップデート等
令和９年３月 31 日	実証実験の稼働終了
令和９年４月下旬	成果検証

７　問い合わせ先

○ ＡＩカメラを活用したクマ出没検知に関する実証実験について
　産業振興部 農村整備課〔電話：559-5090〕

○ 公民連携推進の取組について
　総合政策部 公民連携推進課〔電話：559-5041〕

（参考）株式会社パトライトの概要

代 表 者
　代表取締役社長　山田 裕稔

事業内容
・「光」「音」「文字」を活用した報知機器で、生産現場やオフィス、緊急車両などの幅広い分野へ、見える化にまつわる機器やかんたんＩｏＴソリューションを提供。
・表示灯・回転灯・音・音声合成機器、散光式警光灯などの報知機器の開発、製造、販売
・無線技術を活用した、ＩｏＴ機器などの開発、製造、販売およびソリューションの提案
・ペンダントスイッチ・動力用スイッチなど、接続機器の開発、製造、販売

所 在 地
　大阪府大阪市中央区久太郎町４－１－３